

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】

総合防災論Ⅱ（減災編）

減災連携研究センターと環境学研究科3専攻の教授陣が、理学・工学・社会科学あらゆる側面から防災を講義する「総合防災論Ⅰ～Ⅳ」。文理融合の環境学研究科ならではの授業だ。なかでも総合防災論Ⅱは異彩を放つ。毎週の講義に招くのは、今、まさに防災・減災に取り組み活躍する、様々な分野の方々。「何をきっかけに防災に取り組み、どのような工夫と努力を積み重ねてこられたのか。どんなマインドで実践されているのか。実際の声を聞くことは、学生にとっても大きな糧になります」と言うのは、担当の廣井悠准教授。

例えば、メディアで仕事をする講師は、情報を伝える難しさを語り、広告マンは、クリエイティブワークでどれだけ復興に貢献できるかを語る。さらに東日本大震災の被災自治体職員の間き取り調査をもとに、行政ができること、できないことを議論するワークショップも。「将来起こる可能性が高いとされる南海トラフ地震。学生が名古屋で仕事をしていれば第一線で災害対応を行う立場にはいるはず。だから今、防災にがんばる人々のプロトタイプをきちんと学んでほしい」と期待をこめる。

講師、一人ひとりの人生を通して語られる「防災」。現場で実践し、継続する講師たちの生き方を、学生は真摯に受け止めている。

山田 沙代さん

Yamada Sayo

都市環境学専攻
環境・安全マネジメント講座
博士課程前期1年



この授業では、普段の授業とは全く異なり、自分が災害から身を守るために何を知っているべきなのか、防災啓発のためにどのような取り組みがなされているのか、災害の際に自治体・企業・マスメディアはどのように行動し、教訓として何を得たのか、今どこまで対策ができていて、何ができていないのかを、各分野の第一線で奮闘している方々からお話を聞くことができます。自分のためにもなり、かつ、普段耳にしないような話ばかりなので、毎講義、防災・減災に対する新しい発見があり、いつも驚かされます。講師の方々は、固い意志を持ち、とても行動力がある人ばかりなので、自分の生き方の参考や目標になるので、その意味でもとても充実した講義です。



廣井先生



この日の講師、
石川 淳哉さん

(株)ドリームデザイン

東日本大震災直後、会社を一年間スタッフに任せ復興に関わることを決意。「助け合いジャパン」や「TEAM防災ジャパン」等を立ち上げ、クリエイティブな発想で、多くの人々を巻き込みながら活動を続ける。現在は地域の防災訓練をいかに楽しくするか思案中。